つぶやきから感じる子どもたちの育ち

～植物との関わりを通して～

花言葉は「誠実」

先月，育ててきた野菜とのお別れをしました。これからはお花のお世話をしていきます。さて，このお花の名前は何でしょう？

（答えは子どもたちが知っています！）

お花に水やりをしているときに，子どもたちはこのようなことをつぶやいていました。

「先生，見て！ここにもつぼみがあるよ。」
「私のお花の花びらの形は，ほかの人のお花と違う気がする。」
「真ん中の黄色いところを見ると，小さなお花がいっぱいあるよ。」
「葉っぱが茶色くなってきたけど，大丈夫かな。」

何気ない言葉のように聞こえますが，きっと１年生の頃からいろいろな植物を育ててきたからこそ，こんなつぶやきが生まれたのではないでしょうか。

これまで育てた植物は，どれもたくさんの花をつけました。それを知っているから，次に咲くつぼみに目が向くようになりました。花びらの付き方や形の違いに気がつくのは，じっくりと観察したことがあるからです。葉っぱの裏側や茎に生えた産毛を観察した経験があるから，めしべの付き方といった細部への興味を呼び起こします。植物が命を閉じる様子を目の当たりにしているからこそ，葉っぱの色味の変化が気になるのでしょう。

このように考えると，ふとした会話の中にも子どもたちの “育ち” が隠れているかもしれません。